

「天下をかき回す人々」

～力ある宣教のわざ～

「ご存じでしょうか。世界中をひっかき回してきたパウロとシラスが、今この町でも騒ぎを起こしているのを。」使徒行伝17章6節b[リビングバイブル]

先週から「東京カルバリーチャペル」が東京都中野区5-5-1でスタートしました。私たちの主任牧師である大川先生が大和での11時からのお礼拝のご奉仕を終えて、東京中野での午後3時の礼拝で毎週ご奉仕するという大きな冒険をスタートされました。心臓にいくつものステントを入れた状態での過密なご奉仕となりますが、その東京伝道が豊かな実を結んで行くことができるように私たちも応援し、祈って行きたいと思えます。

パウロは使徒行伝17章6節で「天下をかき回してきたこの人たち」と悪口を言われました。この表現は全くでっち上げの内容で、パウロが「イエス様こそが救い主だ！」と証していることが、当時の伝統的なユダヤ教を信じている人々にとってはとんでもないことだということで、このような人物は捕らえて身動きできないようにした方が社会のためであると考え、訴えられたわけです。しかし、私はこの英語の表現が大好きで、NKJでは、「turn the world upside down」と表現しています。世界の常識をひっくり返しているというような意味でもあります。パウロの語るイエス様への信仰が世界を革命しているということです。また別の箇所では、パウロは「ペストのような男」ともいわれ、伝染病のような存在だとも言われました。今で言えば「テロリスト」呼ばわりされているような状況です。それほどの悪口を言われたら、私たちは素直に自分の主張を引き下げてしまおうですが、パウロは決して引き下げませんでした。石で打たれ、ムチで打たれても、構わずにイエス様を訴え続けました。それはパウロが偉大であったというよりも、聖霊様を通してイエス様がパウロを導いていた訳です。大川先生も、心臓を患い、引退してもいい年齢でもあるし、また、大和教会のように日本一の教会を建て上げたのですから、もうこれで十分だと思ってしまう。でも、東京での伝道は決してあきらめきれないという強い思いが今まで以上に今、熱く燃えておられるのです。

来月は世の光のラリーがなされます。この働きは40年近く毎年欠かさずこの東信地区で続けられてきました。ラジオ伝道の支援ということは表向きで、何よりも魂の救いが目的です。今年は若い人にもっと焦点を当てようということになりましたが、神様の恵みは人から人へと受け継がれなくては意味がありません。自分たちだけで楽しんでいるものではありません。他者へと流していかないと、死海のように死んだ海となってしまいます。

しかし、先週のペンテコステ礼拝での内容のように、まず主の前に待ち望む必要があります。そして、自分の考えで進んではいけません。共に祈り合っ、励まし合うことを継続していきましょう。どうぞ、宣教の業が前進していくように祈り続けてください。